

編 集 後 記

2015年の夏に、文部科学省が国立大学の人文社会系学部の縮小・廃止を通知し、マスコミなどで大きな議論となりました。グローバルな人材育成のための「大学改革」として、工学・医学などの理系の実学に比重を置き、社会的要請の少ない人文社会系を縮小するものと報道されました。文部科学省のこの方針に対しては、大学人・マスコミのみならず、経済界からも批判があがりました。幅広い視野や洞察力などは、教養なしには育むことはできず、普遍的な価値や目的を創造するには、人文科学の知識が不可欠だというごく自然な認識からです。カントの大学論では、大学は「法学」「神学」「医学」などの外部の要請に答える上級学部と、外部から独立した自由で自律的な知である「哲学」を下級学部とした統一体であるとされ、この構造は新制大学の専門学部と教養部に引き継がれてきました。臨床医学は実学の最たるものですが、医学の扱えるのは身体の死のみです。倫理・生死といった議論は、哲学・倫理学・社会学など人文科学の土台なしには、行い得ません。日常の臨床を行いながら、Updateな医学知識に追いつくのに精一杯の毎日ですが、臨床の場で迷ったときの礎に人文科学はなるものだと感じています。

今年12月より当院に緩和ケア病棟がオープンしました。チーム医療として、各種の勉強会・研究会が熱心に行われています。そこでインプットしたものを臨床の場で生かし、さらにその経験を、論文という形で発表してほしいと思います。

三菱京都病院医学総合雑誌第22巻をお届けします。本巻では、原著3編、症例報告3編、活動報告1編、エッセイ1編が集まりました。雑誌の作成・投稿に当たられた皆さま、誠にご苦労さまでした。来年度も皆さまの投稿をお待ちします。

水野 雅博

編集委員長	水野 雅博
同 委 員	井上 智奈美
(50音順)	小野 典子
	岡村 加奈
	勝間 真奈美
	篠原 智誉
	橋元 誠